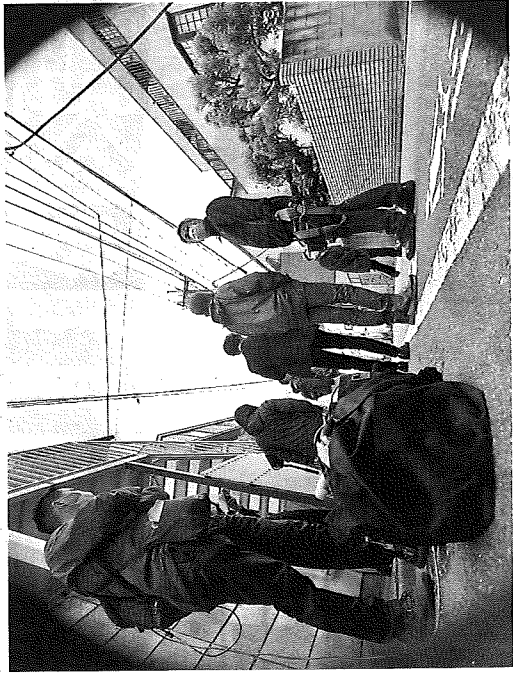


戦後75年

「沖縄アジア国際平和芸術祭」

007



東京高校の黒川弘務校長の自宅周辺に集まった報道関係者。5月21日、東京都内

文化

東京高校校長と在任紙(元)記者の賭けマージャンは社会の耳目を集め、さらにはメディアへの大きな批判を呼んだ。当該朝日・産経新聞社が、すでに当該社員を停職等の比較的重い処分にしたことから「二線を超えた」との判断があったと推測される。ではいったい何がけなかつたのか、主として法的観点から改めて整理しておきたい。なぜなら、もしこれが不当な取材であるとする、今後の取材態様にも様々な

影響を与えかねないから。それは当然、私たちの知る権利の問題でもある。事件の概要は、ここでは繰り返さないが、ポイントとして、①報道関係者が公権力のトップ級と②当該人物が焦点の国会審議中に③しかも緊要事態下で④違法な賭けマージャンを⑤自宅にむね々々集まっていたことにある。

取材先との距離

メディア時評 (6月) 山田健太

力の情報隠し体質にある。状況はさだかではないが、いねは「犠牲者の共同体意識」をもちうるかという点だともいわれることがあろう。もちろん、双方の利害が一致してのシニスマイズでドライな関係もあるだろうし、ともに社会正義のために闘うという連帯感や共感が存在する場合もあるだろう。しかしこれらも含め、根底には決定的な開示情報への欠如という問題が付き回っている。

これは極めて不幸だ。もちろん、記者にとってもだが、当然、社会全体にとっても、時間と労力の無駄が生じているからだ。さらには、取材源となる官僚や政治家にとっても、よけいな守秘義務違反の可能性を負うことになるわけだ。無駄である。こうした誰にとっても無駄で不幸な状況は早く変えねばならない。それがこうした取材方法を大幅に軽減する、もつとも早道であることは言うまでもない。

その第一歩は、公文書管理の誠実な履行を政府に求めることだ。報道界が一致して、記者会員等でもしつこく執拗に同じことを、どんなにめんどうきかされても何層も、確認し続けることを実行するしかない。あるいは、専門家会議をはじめとして会議体構成者に、違法行為に加担していることを追及し続ける必要がある。

正当な取材行為

記者批判にはさらに違法行為である賭けマージャンを行っただという点がある。記者の取材には形式的な違法行為を伴う可能性もある。政治家や警察から情報をとる行為自体、その多くは公務員の職務上知り得た秘密を「そのかして」聞き出す行為と捉えることが可能だからだ。しかしそれは適法、「正当な」取材行為として違法性が阻却されると理解され、裁判所も認めてきている。

一般には許されない、本人に知られないよう、こっそり当該個人情報収集したり、遺失したりする行為も、記者の取材行為である。しかし「正当な」取材行為として違法性が阻却されると理解され、裁判所も認めてきている。一般には許されない、本人に知られないよう、こっそり当該個人情報収集したり、遺失したりする行為も、記者の取材行為である。

しかし「正当な」取材行為として違法性が阻却されると理解され、裁判所も認めてきている。一般には許されない、本人に知られないよう、こっそり当該個人情報収集したり、遺失したりする行為も、記者の取材行為である。

少しも法に引かかるとはしはけないとならぶ。たとえば取材の二環で、記者が反社会勢力の集りに出ることもできなくなる。それは取材の可動域を狭め、緊要違反の可能性を押し下げることになるだろう。こうした事態を招かないためには、私たち自身、社会全体の行き過ぎた濫権性についての自戒が必須だ。一方で、根底には圧倒的な「ジャーナリズム活動」に対する信頼の低下があることを、報道機関自身が強く自覚しなくてはならない。正当性を証明できる取材過程の透明性を高め、取材で得た内容をきちんと紙面化していくことが求められる。(専修大学教授・言語法 第2土曜掲載)

賭けマージャンと取材の自由

権力に情報隠し体質 取材過程の透明性高めよ

め、一緒にマージャンをしなくてはならないのか。多くの読者の素朴な疑問だろう。しかし現実には、日本社会におけるお付き合いの慣習と同様、少なくとも取材先と飲みに行かず、密接な関係を築くことは日常的な風習であろう。一方で日本社会の状況から考えると、こうした「取材先へ食い込む」ことによる、多様な労力を使わざるを得ない状況がある。その理由は情報公開の後進性、公権

「信頼関係」と表現されるが、現実には取材先との人間関係のつながりのなかで、取材先が情に誘われて口を開く、という状態をいかに作るかにかかっているように思われる。あるいは、賭けマージャンがこうした

これは極めて不幸だ。もちろん、記者にとってもだが、当然、社会全体にとっても、時間と労力の無駄が生じているからだ。さらには、取材源となる官僚や政治家にとっても、よけいな守秘義務違反の可能性を負うことになるわけだ。無駄である。こうした誰にとっても無駄で不幸な状況は早く変えねばならない。それがこうした取材方法を大幅に軽減する、もつとも早道であることは言うまでもない。

これは極めて不幸だ。もちろん、記者にとってもだが、当然、社会全体にとっても、時間と労力の無駄が生じているからだ。さらには、取材源となる官僚や政治家にとっても、よけいな守秘義務違反の可能性を負うことになるわけだ。無駄である。こうした誰にとっても無駄で不幸な状況は早く変えねばならない。それがこうした取材方法を大幅に軽減する、もつとも早道であることは言うまでもない。

しかし「正当な」取材行為として違法性が阻却されると理解され、裁判所も認めてきている。一般には許されない、本人に知られないよう、こっそり当該個人情報収集したり、遺失したりする行為も、記者の取材行為である。

しかし「正当な」取材行為として違法性が阻却されると理解され、裁判所も認めてきている。一般には許されない、本人に知られないよう、こっそり当該個人情報収集したり、遺失したりする行為も、記者の取材行為である。

Advertisement for 'Shinshu' magazine, featuring a portrait of a man and text about a collection of short stories by Yamaoka Tetsuhiro.

Advertisement for 'Shinshu' magazine, featuring a portrait of a man and text about a collection of short stories by Yamaoka Tetsuhiro.

さま・みちお 佐賀美術館館長。1946年熊本生まれ。2010年第33回琉球新報活動賞受賞。18年築90回日田市・堺平和賞受賞(大分県市).

け取った先々では仲間たちが印刷を重ね重ねとあらゆる場所で配布した。虐殺を生き延びた洪氏は、絶望の淵に追いやられ、

こそが市民たちの力の源泉であったことを、そして民衆のコミュニケーションを伝統文化的優位性があることを伝え、それは巨大な意義

独の美しい本 114冊紹介

トピックで半世紀以上の歴史を持つ本のデータベースの愛蔵版114冊を、7つのテーマに沿って紹介している。

が秀逸な美用語や学問書、ドイツ語で「タッシュエンツ」と呼ばれるホムレットの本など。ドイツの最も美しい本